

2024（令和6）年度 教養学部国際教育学科 一般選抜（中期）講評

<出題意図>

本文は、自我や独立心が発達する青年期において学校が求めるものと生徒が求めるものが一致しないことがあることを踏まえたうえで、大人はどのように生徒を支援すべきか、心理学者の立場から意見を述べた英文のコラムである。国際教育学科の受験生は、大学入学後、英語と日本語で正確に読み書きする能力が求められる。そのため、問題は英文読解に関する設問と英語・日本語での表現力をみる設問を設定した。これらの設問は、的確に英文の内容を把握できるか、内容に関して日本語で要約できるか、英文の主旨を踏まえて自分の意見を英語で論理的に展開できるか、などの力を測ることを目的としている。また、学校教育において大人はどのように生徒を支援することができるか、多様な視点から考えるきっかけとしてもらいたいと思い、本文を出題した。

<評価のポイント>

問1 正解は、independence である。11行目の“Teenagers crave independence”の意味が正確に理解できていれば解ける問題である。英文の内容が正確に理解できるかをみた。

問2 正解は、compulsory buffet である。この言葉は問題文中の一番最後の段落に書かれているため、最後まで問題文を読まないで解答できない。文章全体をすばやく読み、主旨をつかみながら特定の情報を見つける力があるかをみた。大学では、英語の書籍や論文を多く読むことになる。普段から英字新聞や英文の雑誌コラムを読んで英語の長文に慣れることが大切である。

問3 正解は B の serve である。B (serve) 以外の take, partake, eat, consume は、いずれも「食べる」の類義語であり、(3)に入れても内容的にも文法的にも不自然ではない。英単語のコアとなる要素について理解が深まるように、普段から類義語辞典や英英辞典を使って語彙力をつけてもらいたい。

問4 正解は、C である。英文の内容を正確に読み解くことができるかをみた。

問5 英語で書かれた文章の意味を踏まえて、正確に和訳する力があるかをみた。

問6 英文の内容を正確に読み解いた上で、それを日本語で要約する力があるかをみた。具体的には、「生徒が興味をもっている分野のスキルを更に伸ばせるように学校内や地域の活動を紹介すること」、「好きでない学習を頑張っていることを認めること」、「精神的な問題を抱えている可能性があるため、スクールカウンセラーやメンタルヘルスの専門家の協力を得ること」の3つの要点を、簡潔にまとめることができるかをみた。

問7 筆者が言及している二つの観点が正確に説明されているかをみた。すべての教科で完璧に課題をこなそうとすることによる「ストレス増加の懸念」と「好きなことに費やす時間・エネルギーがなくなってしまうこと」の二つの観点を解答に含める必要がある。

問8 設問の指示に従って、説得力ある理由や具体例を示しながら自分の主張を論理的に説明できるかをみた。内容、構成、言語(英語力)の3つの観点から採点を行った。解答の際は、内容だけではなく、論の展開やスペリング、誤字脱字などにも細心の注意を払うべきである。

<答案の傾向>

問1 正答率は5割程度であった。crystalizing や freestanding などの単語を書いた誤答があった。Independence と語頭を大文字にしているものは減点した。

問2 正答率は低かった。二つの単語を書くべきだが、一つしか書いていないものもあった。

問3 出題者の予想に反して、正答率は低かった。

問4 正答率は、5割程度であった。内容が正確に読み取れていない受験生がいることが伺われる。

問5 文脈を踏まえて、正確に和訳できている解答は少なかった。例えば、"grade" はここでは「成績」のことだが、「学年」や「学位」と誤訳しているものもあった。単語を日本語に置き換えるだけでなく、文意を理解したうえで文脈にそって訳してほしい。

問6 3つの内容を含み、正確かつ簡潔に要点をまとめることができている解答もあったが、そうでない解答が多かった。特に、「好きでない学習を頑張っていることを認める」ことについて、きちんと言及できている解答は少なかった。尚、解答の中には、“First, support your teen’s interests where they lie.”の“lie”を「嘘をつく」と誤訳しているものや、日本語で要約する際に「頑張る」などの漢字を間違えている受験生もみられた。英語・日本語、ともに日々の学習を大切に、まずは基礎力の確立に努めてほしい。

問7 ストレスが増加してしまう懸念についてはほとんどの受験生が解答できていたが、好きなことに費やす時間・エネルギーがなくなってしまうことについて言及できている受験生は少なかった。筆者が指摘している理由は、もれなく言及する必要がある。

問8 理由を論理的に述べたり、具体例が説得的に提示されている解答は少なかった。中には、中学校で学習する基礎的な英文法が習得できていないと思われる解答や、明らかに英文の意味を理解できていない解答も散見されたのは残念である。英語を手書きで書き慣れていないと思われる受験生も少なくなく、そのような場合は、スペリングミスが多くなる傾向が見られた。

以上。